

大阪教育大学附属池田小学校にて

全国国立大学附属学校PTA連合会 東海地区担当理事  
所属 岐阜大学教育学部附属学校PTA 安藤茂則

平成19年4月21日(土) 大阪教育大学附属池田小学校において全附P連の理事会が開催されました。平成13年6月8日に起きた、あのあまりに悲しい事件の現場です。私はどうしても一度は訪れたい学校でした。私自身の目で確かめたいと思い、その場に居たときに自分が感じる感情と、そして子ども達にとっての学校安全というものを今一度確認したいという考えがあったからです。

当日は土曜日であったこともあり、池田の町も落ち着いた雰囲気でした。阪急の池田駅から徒歩で15分ほどの距離にある学校までの間、駅前通り以外は静かな住宅街で、この地で6年前に事件が起きたのが信じられませんでした。

現地に着くと池田小学校は広大な敷地の中にありました。中学校と高校も同じ敷地内にあり、周りも静かで子ども達にとってとても良い環境に感じられました。ただ小学校が敷地の中の一番南側に位置し、本通りに面しており外部と接している場所でした。

最初に、私が見たハード面について述べたいと思います。

まずは正門と玄関についてです。

学校は休みの日でしたが警備員の方が配置されていた現正門より名前のチェックを受け、赤い紐のIDカードを受取り入場しました。通常出入りできる門はこの一カ所だけだそうです。監視カメラも設置されており、夜間も電気錠や赤外線センサーで監視されているそうです。200mほどのスロープを登って行くと右手に池田小学校の玄関があります。そこで感じた第一印象は「明るい」ということです。



池田小学校 玄関

壁のほとんどが透明のガラス

張りになっていて透過性が非常に良く、視認性が確保されていると感じました。

玄関は二重扉になっていて、普段も登下校時以外は施錠されているそうです。玄関には左手に事務室があり、私達のような外部からの来校者は事務室側の扉から入ります。扉もオートロック式の電気錠になっていました。また、事務室は外部に飛び出た出窓が設けられており、来校者を建物内に入れなくても対応できるようになっていました。

次に可視化についてです。



玄関を入ると直ぐに下足コーナーがあり正面には職員室があります。職員室も腰壁の低いガラス張りの部屋になっていて、小さな子供でも内外両方からよく見えるようになっています。職員室の奥にある校長室までもがガラス張りになっており、校長室からも職員室を通して玄関が見えるようになっていました。

下足コーナーより職員室

体育館についても配慮がなされていました。通常私達が思い浮かべる体育館は、数カ所の出入口と壁の上の方に採光窓、そして床面に沿って換気扉があるだけの電気を点けないと暗い印象のあるものでした。しかし池田小学校の体育館は、両側の壁面全体が透明のガラス張りになっており、学校内からも外の市道が見えるように可視化が図られていました。これは事件当時、職員室等から体育館によって自動車通用門が死角になっていたことに対する改善策として、市道と校舎との間の透過性を増すために考えられたことだそうです。



壁面がガラス張りの体育館

他にも可視化について様々なことがなされていました。学校内にある樹木は地面より上へ1.5mほどは枝も剪定され見通しがきいていましたし、外にあるプールのコンクリートの壁も所々にスリットが入れられていて様子が分かるようになっていました。

教室の配置や先生方教職員の配置についても新しい方式が取られていました。

教室の配置は片方の廊下に沿って教室が並び従来のハーモニカ型ではなく、中央に広い廊下を配置し、それを挟んで教室を配置するピラミッド型になっていました。さらに教室はオープン型で、扉も全面開放型の引き戸になっていました。これは廊下側に幅1mほどの2カ所の出入口があるだけの従来の教室と比べて、避難しやすく、見通しが確保できて隣の教室の様子や周りの様子がよく分かる利点があるものです。



ピラミッド型



オープン型

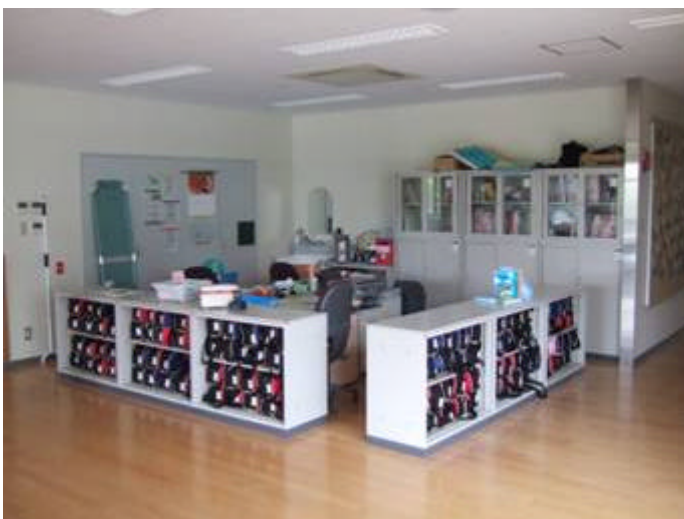
先生方の配置にも工夫がなされていました。従来の方式や私達の子も達が行っている学校では、主に職員室と教室に教職員の先生方を配置する集中管理方式が一般ですが、池田小学校では、教職員の先生方が仕事をする様々な部屋を校舎内のあらゆる所に配置する分散管理方式が採用されていました。特に新鮮だったのは、病院のナースステーションのような「先生コーナー」が各学年に設けられてあったことです。休み時間等は、先生がそこに居るようにして、各教室に来られる人に注意をはらったりしているそうです。そして何よりも大切なのは、いつも子どもの近くに先生がいるという安心感だと感じました。

以上の建物の構造や配置から、池田小学校の安全管理の原則である「全ての人の目で子どもを守る」について、子どもに目が行き届くように本当に配慮されていると感じました。

以上ハード面について感じたことを述べさせていただきましたが、最後に安井義和先生が強調されていた言葉を記しておきます。

「池田小学校の校舎を見学する際に、ハード面での安全対策を物理的にのみ見るのではなく、その様な設備は池田小事件での多くの教訓が

背景にあり、その背景にこそ、私たちは学ばなければならない。」



先生コーナー

理事会終了後、大阪教育大学教授、附属高等学校長の安井義和先生より事件についての詳細及び学校の安全管理についての考え方の説明を受けました。

実際に校舎の外に出て、当日の犯人の行動経路や子ども達、先生方の行動を細かく説明していただきました。私は先生の説明を聞いていると、悲しい現場の状況が自分の中で本当にリアルに思い浮かび、あたかも現場の中に居るような感じになりました。「私だったらどうしたんだろう。こんな時はどうするんだろう。私ならこうした。いや、本当に出来るんだろうか。気が動転して呆然としているだけかもしれない。救助をする。連絡をする。犯人に立ち向かっていく。その場で本当に自分が出来ることは何だったんだろう。」と様々な感情や思いが交錯しました。そして悲しさと怒りを覚えました。当日の先生方の行動や救助隊員の方々の行動の説明を聞けば聞くほどその思いは強くなりました。犯人が学校に侵入してからわずか5分程の間の出来事です。あっという間の出来事です。

今皆様方の学校でも、この池田小学校の事件以来、学校の安全管理について多くの話し合いを持たれ、基本的な考え方をまとめ、そして行動に移されていることと思います。危機管理マニュアルの作成や安全点検、防犯カメラの設置や警備員の配置。学校毎による安全管理委員会の設置や訓練の実施。本当に様々な対策が行われていると思います。

しかし、今一度考えてみていただきたいと思います。現在行われている対策はハード面が主になっていないでしょうか。もちろんハード面は大切だと思います。しかし、自分の中に常に危機管理意識があるでしょうか。過去に起こった事件や事故が風化してはいないでしょうか。私の子どもが通っている学校では起こるはずがない。そんな思いではないでしょうか。警察庁生活安全局の調べでは子どもに危害が及ぶ恐れがあった事案が平成15年に22件、平成16年に19件起きています。い



旧正門



犯人が侵入した通用門  
で安井先生より説明を  
受けているところです



旧正門から望む「祈りと誓いの塔」、学校全景

池田小学校では、事件後様々な取り組みがなされています。学校の安全管理について設備の充実を含めたハード面はもちろん、安全意識の高揚を目指したソフト面まで、事件を教訓とした環境の整備がなされています。二度とこの様な事件を起こさないための取り組みです。

そしてもう一つ大切な取り組みがなされています。それは、「事件を忘れないために、風化させないために」の取り組みです。校舎の改築当初から考えられてきた方針です。現在の校舎は事件当時の骨格を変えることなく改修されています。実際に校舎の1階に入れば、まさしくそこがあの痛ましく悲しい事件の起こった場所です。その場所が残っていること。すごく意味のあることだと思います。

私は全国の方々に知ってもらいたいと思います。もし訪れる機会がありましたら是非池田小学校を訪問していただき、実際に自分の目で確かめて下さい。その時は校長室にも、8人の天使の写真が掲げられています。そしてご自身の心で感じて、覚えておいていただきたいのです。

**「その8人の天使は、この校舎で学校生活を送れない。またその保護者の方々には、我が子がこの校舎で学び、遊んでいる姿を見ることの出来ない理不尽さを」**

学校の安全管理とは何か、自分の危機管理意識はどうか、新たに見えてくるものが必ずあると思います。

最後に、当日お世話になりました安井先生を始めとする学校の先生方に、心からの感謝を述べさせていただきますと共に、学校が、子ども達にとって安全で安心できる場所となるよう取り組みを続けていくことを約束したいと思います。



1階のふれあいギャラリーにあるプレート

つどこで事件が起きても不思議ではない状況です。防犯設備（ハード面）の改善、充実にはお金がかかり限界があるのが現実です。でも人の意識（ソフト面）を高めたり変えたりすることはまだまだ出来ることが多くあると思います。「子どもの安全を守ろう。自分が守らなければならない。」こんな危機管理意識を常に持っていることが大切だと痛感しました。



南校舎 1 階の様子です  
正に事件の起こった場所です



南側より見た現在の  
池田小学校の外観です

